

令和7年度 政策討論会 第一分科会（第3回）要点記録

・テーマ ベイエリアのリノベーションについて

・日時 令和7年7月28日（月）

・場所 第二委員会室

・会議時間 10:00～11:13

・出席者 岸田 厚 （座長）

岩崎 雅秋（副座長）

高比良正明

海老原友子

昼馬 光一

反甫 旭

京西 且哲

松本 妙子

*座長、副座長以外は議席番号順

・議事内容 1.理事者を招聘し、現状の行政側の考えを聞いたうえで討論

2.招聘対象理事者

(1) 船橋 魅力創造部長

(2) 上東 産業政策課長

3.今後の討論会の予定について

次回日程 8月12日（火）10:00～ 第一委員会室

・発言要旨

岸田座長

- ・「岸和田ウォーターフロント協議会がなぜ開催されていなかったのか」課長からの説明を受ける。市の認識では「魅力づくり構想」を直接実行する協議会ではないという認識であった。市の「魅力づくり構想」を実現しようと思えば、構想計画内にあるすべての団体や個人に構想の内容を知ってもらわないと実現できないのではないか。みなとオアシス岸和田運営協議会などとも今後連携が必要ではないか。

岩崎副座長

- ・産業政策課が事務局になって、農林水産課、産業政策課、観光課、文化国際課等と民間を含めた、この地域の関係団体との協議体を新たにつくるべきと考える。

松本議員

- ・担当課のこれからの取り組み、目標とする事の意欲があまり感じられなかったので、自分自身も岸和田市の器では、この事業をやっていくのに不安を感じると発言した。腹を決めた積極的な意欲を見せていただきたいと思った。

京西議員

- ・魅力創造部長及び産業政策課長からこれまでの経過について報告を受ける。岸和田

旧港地区周辺の魅力づくり構想の策定者である「岸和田ウォーターフロント連絡協議会」は休止状態である。(構成：大阪港湾局、岸和田市、岸和田商工会議所、JLL)

- ・ 今後はエリア内の関係団体に協議会への参画を求め、課題共有の場を再開したいとのことである。ベイエリアをリノベーションすることで、本市の課題である雇用の拡大・創出につながるとの主旨で政策討論を行っている。しかし、民間団体の事業活動に岸和田市は関われないとの考えであることから、議会の責任において、課題の解決に向けた取り組みを検討する必要がある。
- ・ 魅力づくり構想の策定から9年を経過しているが、「構想」から進展しない理由が見えてきたことから、まずは、エリア内の権利状況を調査し、活性化に必要な施策を検討すべきと考える。

反甫議員

- ・ いろいろな音楽イベントを誘致することはいいことかと思うが、環境面への配慮など考えないといけない課題がある。

昼馬議員

- ・ 「岸和田ウォーターフロント連絡協議会」があることを初めて知った。また、みなとオアシス岸和田運営協議会があることも知った。
- ・ 海側の発展をずっと考えてきている事が理解できた。これから先の発展を考えてみるが私にはいい知恵が浮かんでこない。岸和田市に今、必要なのはホテルなど、宿泊施設かなと思うところである。

海老原議員

- ・ 岸和田ウォーターフロント協議会の構成メンバーも説明されたが、「岸和田旧港地区周辺の魅力づくり構想」のイメージに結びつかない。
- ・ このエリアをどんなふうにしたいか、賑わいを作るにはどうしたら良いか、などの検討を岸和田ウォーターフロント協議会で進めるためにも、エリアに関係ある人たちを集め、まず、「魅力づくり構想」を知ってもらう場を持つことが必要と思った。

高比良議員

- ・ ベイサイドについて、府はビジョン提示をしているが、各自治体案の集積でしかなく、精査や課題抽出などには着手していない。堺市では、2050年に向けてのグランドビジョンが提示されており、旧堺港は大きさが少し異なるものの、本市としても参考となるような未来像が描かれている。しかし、本市産業政策課として、確認をしていないとのことで、参考にさせていただきたい。
- ・ 海の交通やホテルなど規模の大きな計画を、本市が着手可能とは考えたいが、一定賑わいを創設する案については、ヒントとなるべきものもあるかと考える。
- ・ レゲエの発言があり、私も以前、議会でスペインのイビサ島、メキシコのカンクン

まで、突き抜ける案を提示したが、いずれも地元民は顔をしかめる面もあり、近隣住民、まただんじりを嫌がって、岸和田を選ばない市外の潜在転入者の嫌悪感に輪をかけるおそれもあり、市として、そこへ振り切るには、特区的計画など、熟慮が必要と考える。岸和田をゴッサムシティとすべきでないからだ。